

## 総合学習「ふるさと仙台と私たち」に思う

3年生の掲示板の前に「七夕飾り」が飾られました。

今年も仙台七夕に参加するために総合的な学習の時間で製作を進めているようです。私が以前勤務していた頃よりも昔からこの活動は続いていて、附属小の夏の風物詩の一つです。

また、七夕飾りを製作するという事は生活科と接続する意味でもとても重要です。当時の単元構成を見てみると、まず製作に取り組み、その後七夕について課題設定して調べ活動に取り組んでいきます。また最後は3月の学習発表会で、歌や踊りを取り入れながら調べたことを表現していたので、本当に1年間を貫く活動でした。

※詳しくは『もくせい30号新しい教育の定着を図って第3学年  
総合学習「仙台七夕とわたしたち」』をお読みください。



先ごろ、文部科学省は新学習指導要領の移行期間における外国語の取り組みについて、総授業時間数の不足も懸念されることから15時間を上限に総合的な学習の時間を削減し、外国語活動にあてることも特例で認めることを案として公表しました。これまでの総合的な学習の時間の時数を振り返ってみると、前回の学習指導要領の改訂で、総合的な学習の時間の時数は3、4年生が105時間から70時間へ削減。5、6年生は110時間から70時間へと削減されています。これは中学年では、国語、算数の時数を純増。高学年では外国活動の時間を新設したことに対応するためです。本校では、すでに「外国語教育強化地域拠点事業」の指定を受け、実質的に授業時数を増加して対応しているため総合的な学習の時間への影響はありません。

私は学級経営の柱が「道徳の時間」と「学級活動」だとすると、特に附属小では学年経営の柱は生活科と総合的な学習の時間だと考えています。先日の公開研究会の講演で、尾崎先生から総合的な学習の時間と学力の関係についての興味深いお話がありました。全く同感で、今こそ総合的な学習の時間の大切さについて私たちは考えなければならないのではないかと考えています。

さて、仙台七夕ですが、その歴史や由来、仙台の七夕飾りについては、興味深い歴史がたくさん含まれています。今はインターネットが普及し、ほとんどのことがネットで検索できるようになりました。IT化を進める上で批判されそうですが、附属小の子どもたちには、昔ながらの「汗をかいて調べる」経験、苦勞してわかったことの喜びもしっかり経験させたいものだと思います。

(文責：副校長 手代木)